



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

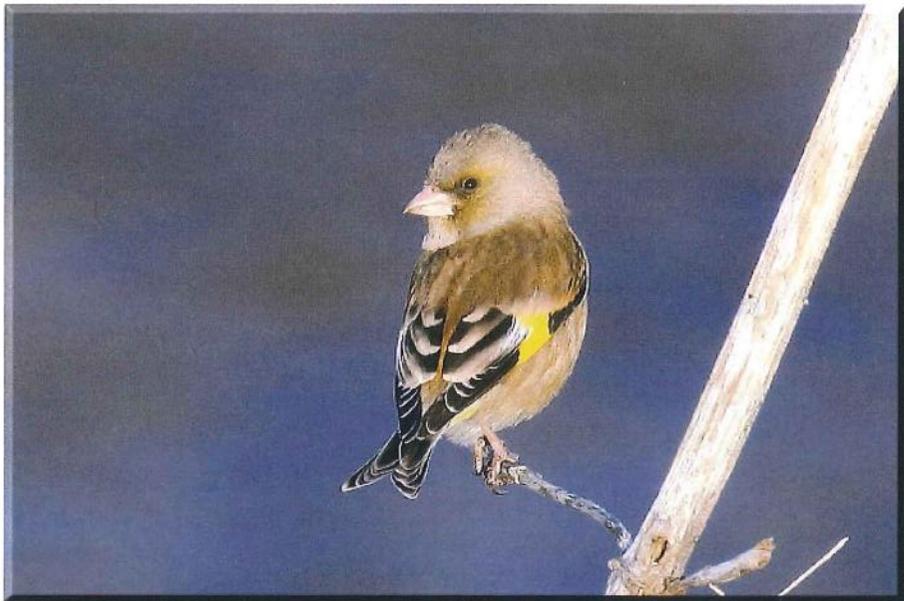
しらこぼと

2012.3

No.335

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



私の「会員増大作戦」案

昨年の11月号で「会員‘増’大作戦」を募集したところ、3名の方からご意見をいただきました。会員の皆様にご紹介すると共に、これからもアンテナを高くして皆様の声に耳を傾けていきます(編集部)。

鮎沢さんの案

●**広報の活用** 散歩を初めて何年か経った頃、花や鳥にも興味を持ち始めた。そんな折、市の広報で地域の自然観察会の案内が紹介されていた。参加して普段見慣れた景色の中に、改めて地域の思いがけない自然に触れることができた。特に初めてフィールドスコープで見たモズの美しさは未だに記憶に残っている。

「もっと野鳥を見たい」と思うようになり、日本野鳥の会埼玉(以下「埼玉」)のHPを開き、自宅近くの探鳥会に参加したのが初めてでした。そんな私の経験として、地域限定の探鳥会を開くことは有意義と思われま

●**HPの充実** 求人を出した経験がある。地域の折り込みチラシでは反応なし。そこで広告会社のインターネットとフリーペーパーを利用したところ何とか手応えがあり、採用するに至った。その人の話によると、主にネットで就職活動をしていたとの事。更に日常での買い物等、生活のあらゆる場面でネットを活用しているとの事であった。

このように若い人が、情報収集や買い物などにインターネットを多様に活用しているならば、「埼玉」のHPも一層充実させ、今以上に初心者にも優しい会でなければならないと考えます。



「あれがワシカモメかぁ」銚子港探鳥会

例えば「初めての人のバードウォッチングコーナー」はどうでしょうか。新人さんには探鳥会などの言葉は使わず、「バードウォッチング」など聞き慣れた言葉で誘ってみてはいかがでしょうか。

また、関東の各野鳥の会のHPで参考になるのが日本野鳥の会群馬です。月ごとの探鳥会情報(第1日曜日といった表現ではなく開催日まで表記)やフィールドデータ(過去3年間ほどのデータも載っているのでおおよその見られる鳥の種類が分かる)、「ジョウビタキを見ましたか」等の会員参加型のコーナーもある。

●**双眼鏡の貸し出し** 私は初めて探鳥会に参加した際、双眼鏡は必須のアイテムと思い購入はしました。しかし今後、高価な双眼鏡が部屋の隅でほこりを被ることになりはしないかなどと、一抹の不安はありました。このような初心者の不安を解消する策として、会の貸し出し用の双眼鏡を用意してはいかがでしょうかでしょうか。もちろんHP上にはそのことも紹介します。会員の不要になった双眼鏡を寄贈していただくこともできると思います。バードショップカタログも用意してはいかがでしょうか。「埼玉」の収入にもなると思います。

さいたま市 滝沢さんの案

会員数が減ることは、大変残念なことであり、活動の原資である会費収入の減少にもつながるため、切実な問題だと思います。

実は私は入会して20年になりますが、一度も探鳥会に参加したことがありません。いつか機会があればと思いつつ、時間を合わせるわずらわしさ等もあり、敬遠したまま自分の時間と活動範囲の中で鳥見を楽しんでいます。

そんなこともあり、実際の会員の中で、積極的に会の活動に参加している人とそうでな

い人、ひよっとすると一時期ははまったけれども今はなんとなく続けている人など、様々な層がいます。

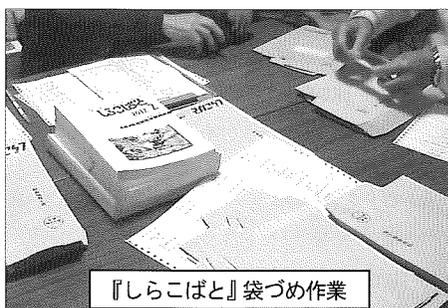
そこで、まずは会員の会の活動に対する意識調査を行ってはどうかと思います（**作戦1：現状把握**）。

会員を増やすためには、入会者を増やすことと退会者を減らすことが必要ですが、入会者を増やすためには会の存在や魅力をアピールし、全くの新規入会を狙う他、既存会員からの紹介などの口コミが有効だと思います。今でもあるのかもしれませんが、紹介キャンペーンなどを打ってみてはどうかと思います。単なる紹介だけでなく、たとえば会員の人が友人に贈るプレゼント、年賀状やカレンダーなどに、入会優待券などを刷入したり、紹介した人にも多少の優遇があるようにしたりする動機付けなどの工夫も必要かと思えます（**作戦2：紹介キャンペーン**）。

探鳥会など、一般の人と触れ合う場においては、参加者でなくても通るすがりの興味ありそうな人に声をかけ、積極的に双眼鏡や望遠鏡を覗いてみるように誘ってみたり、今後の探鳥会日程のチラシを配ってみたりするアピールをしても良いと思います。初心者限定の探鳥会などを企画してみても良いかもしれません（**作戦3：探鳥会で勧誘**）。

また忘れてはいけないのが、退会者を減らすことです。老化や死亡による減少のほか、経済的な事情で退会する人も少なくないと思います。体力や金銭的、時間的余裕が無くても楽しめるように、インターネット上のコンテンツとの融合を図ったり、会員間のコミュニケーションを図ったりするなど、より多様な活動が求められると考えます（**作戦4：活動の多様化**）。

恐らく会員構成は高齢者に偏っていると思います。私はとあるスキーのクラブを運営していますが、高齢化対策は重要な課題となっています。高齢者が積極的に活動できるような工夫をしながら、若い人が入ってきづらい雰囲気を払拭する二重の作戦をとらなければいけないと思います。大変な課題とは思いますが、「埼玉」の取り組みが全国に波及する



ように、ご活躍をお祈りします。

S.Oさんの案

まず人員のみの文面として解釈し全体の組織はどうなっているか？ お尋ねさせていただきたく、

- 1、男女の割合を調べる。
- 2、年齢順に分けてみる。
- 3、新会員の加入に対し男女の比率及び年齢を調べる。
- 4、退会員の男女の比率及び年齢を調べる。
- 5、会員年数参加者を調べる。

前記を調べる事により、参加の目的、又退会の原因を追求する事ができる。今後の資料を作成する材料となると思います。

さらに、

- 6、初参加者にアンケートを作成し、良かった点、悪かった点等の意見を問う。資料作りの参考とする。
- 7、前記と同じ様に探鳥会参加者にも質問事項を作成し問う。要望事項を依頼する。
- 8、会員の中には大勢の方が探鳥会に参加されていない。その人達にもアンケートを作成し、問う事が大事だと思う。

特に意見を多く取り寄せる事が、今後の課題として検討・反省材料となり得るだろう。

また、

- 9、各企業、地域の協同組合や業者と業務提携してPRを率先し、協定を結んだ中で運営をはかり、相互に協力し円滑にする。
- 10、70代になると高価な機種は余り必要ないと思う。年齢層に見合うものが良い。私としては個人的でも有りますが、観光が出来るような場所、温泉、公園、工場等の紹介(主要道路、交通機関)、提供及び

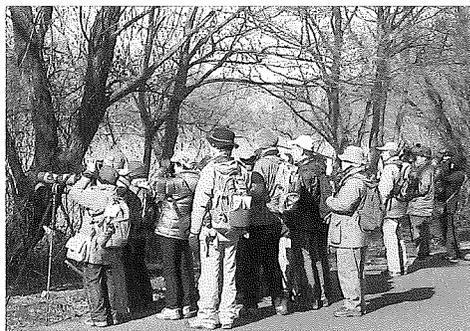
割引優待券等を発行して欲しい。

- 11, 皆様の報告から察すると、探鳥会はベテラン及び参加回数が多い人達の集まりで、未熟な人の出るところが無い様に思われる。初参加の人達の好奇心をかき立て、次のステップにはずみをつくり出す事が大事だと思います。
- 12, 山登り等で道案内人の様な資格制度がある様に、例えば1級2級と言った具合に、等級試験を設ける。鳥に対する知識検定を定める。皆のはげみとなり、意欲も出て、勉強されると思うが、年に数回検定を実施する。
- 13, 探鳥参加回数、会員年数、その他を参考資料に加算し、等級の査定とする。
- 14, 会員証も、等級に従い色分けを考える。グループ分けにして探鳥会等を行うと話が通じやすくなると思う。又はグループに分散し、楽しくさせる事が出来る。
- 15, 他県及び他の支部にての情報交換を行い、沢山の声を得る事が必要。
- 16, 会員を募るポスターを作成し、公園、観光先のスポンサーに協力をお願いし、掲示できる場所に貼る。

最終的には、日本野鳥の会に入会し、参加して良かったと思うことが大事です。体が動く限り探鳥会に興味が出るように望みたい。

また、会の運営に至っては寄付等が常に活字になっており、大手の企業が参画されています。しかし、各企業で環境の違いもあります様に、地域ぐるみの総括した参画を企業に呼びかけるが必要だと思います。一方通行にならない様に、野鳥の会も企業に協力するところは前向きに進んで責任を負う事も忘れてはいけません。お互いに助け合う事が肝要です。

(いただいたご意見はできるだけ原文のままご紹介しました。従って、過去に実施された策、現在実施している策、すでに公開されている情報等々も混じっています。しかし、編集部としてはそれら一つ一つを見直し、今後の会の運営に役立てる手伝いをしていきたいと思ひます。まずは「着眼大局、着手小局」)



1月8日、彩湖探鳥会

鳥を見るマナーについて考える 入山 博(春日部市)

昨年の11月20日、奥日光探鳥会での出来事である。

西ノ湖から柳沢川沿いに歩いて来たら、上流100mの中州にカメラマンが立っていた。それも、以前、オオワシがよく止まっていた木の真下に。

私たちから見れば、カメラマンがそこに居るとオオワシが飛んで来ないと思うし、カメラマンから見れば、団体がそこに居ると飛んで来ないと思ったに違いない。

私は、カメラマンに注意するのを迷った。結局、注意をしないでその場を去った。カメラマンに注意する前に、鳥からの視線になって考えてみたからだ。

目立つ所にいれば、鳥は飛んできたり寄り寄り来りはしない。それは皆さんも経験済み。また、騒いでいたりすれば鳥たちは逃げてしまう。それも皆さん経験済み。

では、最低限のマナーとは何か？

- ① 長時間同じ場所にいるときは、鳥からの視線を考えて目立たないようにする。
- ② 鳥たちがいそうな場所では騒がない。

バードウォッチングをしている時は、鳥からの視線を考えて行動し、周りの人にも迷惑がかからないようにしましょう。「人の振り見て我が振り直せ」と言う故事もあります。自分から見て「迷惑だな」と思う行為は、絶対しないように心掛けたいと思ひます。



野鳥情報

さいたま市見沼区加田屋 ◇11月9日、カイツブリ1羽、バン1羽、いずれも、ここでは久々の出会い。イソシギ若鳥1羽。カワセミ2羽が連れだって川面すれすれに飛んでいった（小林みどり）。

さいたま市大宮区大宮第三公園 ◇11月12日午前8時頃、愛犬との散歩で家を出ると、頭上から「クエックエツ」という待望の声。いました！ ツグミ1羽、今季初認。胸を張って電線にとまっている。写真を撮ろうとカメラを取り出したところで飛び去ってしまった。ちなみに、昨年の大宮での初認は11月4日で、1週間遅れです。11月16日午前6時半頃。出勤途中で大宮氷川神社に参拝して、参道に向かうと、ハシブトガラスの騒ぐ声。頭上低空を、ハシブトガラス4～5羽を従えて、オオタカが悠然と飛翔。白いはずの胸から腹が、朝日を受けて橙色に輝いて綺麗でした！ 大きさから、間違いなくオオタカ。ハイタカ♂ではなかった（浅見徹）。

深谷市本田白鳥飛来地 ◇11月12日、コハクチョウ、カモ類ともに0羽。シーズン中の管理人を今年度から置かない旨、掲示されていた。ノスリ1羽、クサシギ、イソシギ、イカルチドリ。11月20日、コハクチョウ2羽、ホオジロガモ幼鳥1羽♀5羽、コジュケイ5羽±、12日と同じシギ・チドリ類3種。11月27日、ホオジロガモ幼鳥1羽♀6羽、ホシハジロ♂1羽、カイツブリ20羽±、オジロトウネン5羽、クサシギ9羽、イソシギ5羽±、イカルチドリ7羽、キジ♂1羽♀1羽、シメ5羽±。コハクチョウの姿はなかった。12月10日、ホオジロガモ幼鳥3羽♂2羽♀11羽、スズガモ♀1羽、ミコアイサ♀タイプ1羽、ホシハジロ♂1羽、オジロトウネン2羽、クサシギ2羽、イソシギ5羽±、イカルチドリ6羽、ノスリ1羽（鈴木敬）。

さいたま市岩槻区末田須賀塚 ◇11月12日、マガモ♂1羽、コガモ20羽±、ヒドリガモ

50羽±、オオタカ1羽、ハヤブサ1羽（小林洋一・小林みどり）。

さいたま市見沼区膝子～緑区上野田 ◇11月12日、キジ♂1羽。少し離れた場所に、もう1羽の♂、♀1羽と仲良さそうに歩く。ミヤマガラス200羽±、その中にコクマルガラス暗色型3羽。ハシボソ、ハシブトよりもミヤマの方が圧倒的に多くなった。11月19日、ミヤマガラス200羽±、コクマルガラス暗色型3羽、淡色型1羽（小林洋一・小林みどり）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇11月13日、イチョウの木の花辺にシメ1羽。今季の初認。ツグミ1羽が電線に。ここで今季の初認。帰りに帰るカラスが高圧電線の最上線にずらり。何故かカラスは一番上の線だけにとまる。良く見ると、カラス避けを施工した部分には1羽もとまっていなかった。11月18日、ケリの声に似た声が聞こえた。どうもケヤキの梢にいるモズのような。11月21日、電線にツグミが6羽。最近毎日見られるようになった。シジュウカラ10羽±、メジロ3羽、エナガ3羽の混群が雑木の中で枝移り。何を食べているのだろうか？ 11月28日、ツグミ10羽の群れが樹冠を飛びかい、アオジ2羽がエナガに続いてツバキの枝先に出てきた。数日前からウグイスの地鳴きを聞く。春が楽しみだ。12月12日、イチョウの木の花辺でシメ1羽が羽繕い。この公園周辺で今季初認。ハシボソガラス1羽がナンキンハゼの実を食べていた。シジュウカラ、メジロ、エナガの混群がモミジとツバキの木を行ったり来たり。午後4時30分頃、ツグミ4羽が桜の木の花辺にとまっていた。12月16日、アオジ1羽が日当りのいいウメの木の花辺に。腹部の黄色が綺麗だった。シジュウカラ4羽がナンキンハゼの実を食べていた。近くで2羽のコゲラが採餌。これをヒヨドリがきて追い払った（長嶋宏之）。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇11月20日、ヨシガモ♂1羽、ミコアイサ♀1羽、カンムリカイツブリ2羽、ゴイサギ成鳥2羽幼鳥10羽±、亜種オオカワラヒワ5羽、今冬初認。その他ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジ

ロ、オナガガモ、カルガモ、マガモ、オオバン等多数（長嶋宏之）。

さいたま市北区芝川（石橋～鷺山橋） ◇11月22日、ゴイサギ成鳥1羽、コガモ♂2羽♀型4羽、バン成鳥2羽若鳥2羽、オオバン1羽。民家のアンテナにジョウビタキ♂1羽、縄張りが決まったらしく、この日はこの1羽だけ（小林みどり）。

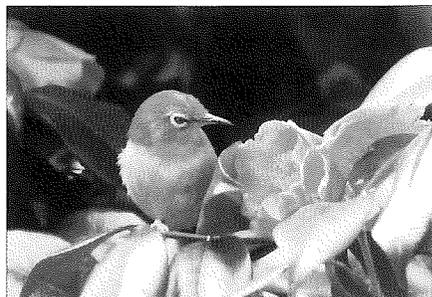
加須市加須はなさき公園 ◇11月24日、ジョウビタキ♀2羽、ホオジロ♂1羽♀1羽、アオジ♀1羽、カワセミ1羽、その他ここでは珍しいキンクロハジロ♀1羽、ヒドリガモ30羽±、カルガモ多数（長嶋宏之）。

蓮田市根ヶ谷戸公園 ◇11月25日午前7時、エナガ8羽、当地今季初認（本多己秀）。

川越市伊佐沼 ◇11月27日午後1時30分頃、入間川探鳥会の帰り道、クロツラヘラサギ1羽を確認。探鳥会でのイソヒヨドリ♀に続きまさかの珍鳥続きに親子共々、びっくり！です（石塚敬次郎・秦）。◇12月4日、家内と二人、クロツラヘラサギ若鳥を見に行く。新聞報道されたこともあって、大勢のバードウォッチャーで賑わっていた。私がこの鳥を埼玉県内で見るとは、1987-88年の冬（この鳥の県内初記録のとき）以来となる。ところで、クロツラヘラサギは確かに珍しいが、その傍らに下りていた（ただの）カモメのほうも、埼玉県内としてはかなり珍しいのではないか。アオアシシギ、ハマシギ、コチドリなどのシギ・チドリ類も見る（榎本秀和）。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇11月29日、オナガガモ、ヒドリガモ、バン5羽±、オオバン10羽±、カワセミ1羽がもう1羽を追って飛ぶ。シメ2羽（小林洋一・小林みどり）。

白岡町柴山 北緯36.0478 東経139.6143
◇12月2日、ミヤマガラス300羽±が耕耘していない田圃で採餌。成鳥対幼鳥比は1対2。コクマルガラスやハシボソガラス、ハシブトガラスは混じっていなかった。遠くの方のパアーンという音に驚いて一斉に飛び立ち、2つの群れに分かれた。1つは南東に、他方は北に飛んでいった（長嶋宏之）。



メジロ（榮 武男）

菖蒲町小林 北緯36.0635 東経139.5790

◇12月2日、ニューナイスズメ200羽±が電線にとまって様子を窺っている。しばらくすると、下の田圃に降りて採餌。数分後、何かに驚いて一斉に近くの電線に逃げた。12月22日、ニューナイスズメ200羽±が3つの群れに分かれて田圃で採餌していた。何かに驚くと近くの電線に飛び上がった（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇12月6日、シロハラが飛び出した。ここで今季初認（松原卓雄）。

白岡町元荒川八幡橋下流 ◇12月9日、セグロカモメが大きな魚の死体を食べていた。イカルチドリが7羽、首をすくめて丸くなっていた。その他にコガモ100羽±、カルガモ35羽±、イソシギ1羽、ダイサギ3羽、コサギ6羽、セグロセキレイ2羽、モズ♂1羽（長嶋宏之）。

滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇12月12日、山田大沼周辺を薙りにしていたカウ約1000羽がいなくなった。何処に分散したのだろうか？（長嶋宏之）。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇12月18日、カンムリカイツブリ6羽、オオバン10羽、ダイサギ3羽、アオサギ1羽、セグロカモメ2羽。その他カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、マガモ、コガモなど多数（長嶋宏之）。

表紙の写真

スズメ目アトリ科カワラヒワ属カワラヒワ
亜種オオカワラヒワです。

加藤和徳（川越市）

行事案内



ベニマシコ (鶉飼喜雄)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。「会員限定」と記載してあるもの以外は、どなたでも参加できます。小学生以下は保護者が同伴してください。

初めてのの方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。遠慮なく見て、楽しみましょう。

参加費:就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物:筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻:特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

3月は鉄道・バスの時刻表変更があります。この案内は、執筆当時の時刻表に基づいていますので、変更があるかもしれません。ご注意ください。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：3月4日(日)

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、吉安、田中、長嶋、長野、菱沼(一)、榎本(建)、青木、赤坂

見どころ：冬鳥たちは長旅に備えて帰り支度に忙しくなる一方、恋の季節に向けて鮮やかな装いになります。道端の野の花もあわせて早春を楽しみましょう。

寄居町・玉淀河原探鳥会

期日：3月4日(日)

集合：午前9時30分、寄居駅南口駅前広場。

交通：秩父鉄道熊谷8:52発、または東武東上線川越8:19→小川町乗り継ぎで寄居下車。

担当：小池(一)、井上、大澤、堀口、鶉飼、岡田

見どころ：カワセミ、シギ・チドリ類、カモの仲間など、多様な野鳥を観察します。探鳥会終了後、鉢形城跡、カタクリの自生地、エドヒガンザクラの巨木など、歴史と自然を散策することもできます。

さいたま市・三室地区臨時探鳥会

期日：3月10日(土)

集合：午前8時45分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時30分、さいたま市立浦和博物館前。

担当：楠見、藤掛、増田、柴野、島山、三室地区探鳥会リーダー有志

お願いとご注意：「見沼たんぼクリーン大作戦」の一環として、1年間の感謝を込めてゴミ拾いをしながらの探鳥会です。手袋(必携)など必要な用具をご持参ください。定例探鳥会より30分遅い集合です。定例探鳥会はいつものように翌週18日に開催します。参加費は通常と同じに必要です。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：3月10日(土)

集合：午前8時、東武越生線川角駅前。

ご注意：集合時間が1時間早くなりました。

交通：東武東上線川越7:23(急行)→坂戸で越生線乗り換え7:40発。または寄居6:43→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR埼京線大宮6:56→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、久保田、志村、高草木、杉原、高橋(優)、藤澤、増尾、持丸

見どころ：春の高麗川沿いを、そろそろ帰り支度を始める冬鳥や身近な留鳥、足元の草

花などを楽しみながら歩きます。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:51発に乗車。

担当：新井(巖)、森本、倉崎、飛田、千島、鶴飼

見どころ：冷たい風にも春の息吹が感じられるようになりました。そろそろ見納めになる冬の鳥たちに名残を惜しみながら、春を探して歩きます。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：3月11日(日)

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部8:22→久喜8:35→花崎8:42。JR宇都宮線大宮7:58→久喜8:23で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：長嶋、中里、栗原、内田、植平、茂木、竹山、長谷川、相原(修)、相原(友)

見どころ：ウグイスの鳴き声に背を押され、渡りの準備に忙しい冬鳥たちを探します。冬芽がほころんだ樹冠を見上げると春の空にタカが大きく舞っているかも。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：3月11日(日)

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場。

担当：浅見、兼元、松村、赤堀、船木、山田(東)、野口(修)、柴野、小林(み)

見どころ：早春の見沼たんぼで、野鳥や草花をのんびり愛でませんか。公園から、たんぼ～川岸～雑木林～畑地～池と巡り、スタート地点に戻ります。途中2カ所でトイレ休憩を取ります。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：3月17日(土)午後3時～4時ころ

会場：会事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：3月18日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、倉林、新部、渡辺、若林、小菅、赤堀、増田、宇野澤、須崎、船木、畠山、柴野

見どころ：冬鳥が少しずつ帰り始めます。ツバメがやってきて見沼たんぼは百花繚乱の季節を迎えます。今年は復興への思いを共有しながら探鳥しましょう。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：3月18日(日)

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場。

交通：東武伊勢崎線北越谷駅東口、①番バス乗り場から、8:57発エローラ行きで「松伏高校前」下車。

担当：田邊、橋口、植平、吉岡(明)、榎本(建)、野村(弘)、野村(修)、森下、進士、佐藤、佐野

見どころ：2年ぶり、春の松伏探鳥会です。まだ居残っている冬鳥と、気の早い夏鳥を探して、公園と農耕地をゆっくりのんびり歩いてみませんか。

長瀨町・宝登山探鳥会

期日：3月20日(火・祝)

集合：午前9時20分、秩父鉄道長瀨駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8:00→寄居8:28に乗車。

解散：正午ころ、宝登山山頂梅園前。

担当：井上、小池(一)、佐久間、大澤、堀口、鶴飼、岡田

見どころ：春の山野草なども観察しながらゆっくり登ります。山頂では梅林の甘い香りが漂う中に、奥秩父の山並みがきれいに見えることでしょう。

ご注意：寒暖の差があります。上着1枚と飲

み物は忘れずに。長瀨駅近辺にコンビニはありません。

栃木県・日光東照宮裏山探鳥会

期日：3月24日(土)

集合：午前9時25分、東武日光駅前。集合後路線バスで「総合会館前」まで移動。

交通：東武伊勢崎線春日部7:44発「快速」東武日光行き、または久喜7:36→東武動物公園で7:50発「快速」東武日光行きに乗り換え、東武日光9:20着。

解散：午後2時ごろ、神橋付近にて。

担当：玉井、田中、中里、植平、浅見、佐野、佐藤

見どころ：大谷川と稲荷川沿いを、カワガラスとミソサザイを探しながら歩きます。道の両側の木々にはキバシリ、キクイタダキなどを期待しています。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：3月25日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、星、山本(真)、久保田、石光、山口、水谷、間正

見どころ：3月はいつものツバメとカタクリを見る探鳥会です。身近な鳥、草花を見ながら、毎年同じ景色の中に同じことが出来るのはいいものです。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：3月25日(日)

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口から、朝日バス行田車庫(佐間経由)行き8:50発で、「産業道路」下車、徒歩約15分。またはJR行田駅東口から、行田市内循環バス9:05発で「埼玉古墳公園前」下車、徒歩約2分。

担当：内藤、岡安、大坂、関口、茂木、立岩、栗原、長谷川、竹山、相原(修)、相原(友)

見どころ：陽射しはすっかり春ですが、さきたまの桜は未だつばみ。冬鳥はそわそわしながら残っていて、夏鳥を迎えています。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：3月31日(土)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21→春日部7:36→栗橋7:56→柳生8:06。またはJR宇都宮線大宮7:03→栗橋7:38で、東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：内田、玉井、田邊、中里、茂木、植平、山田(東)、進士、野口(修)、佐藤、佐野、橋口

見どころ：2年続きで今年もアシ焼きは中止となりました。野鳥たちに変化はあるのか。

栃木県・小倉山森林公園探鳥会(要予約)

期日：4月29日(日)

集合：午前8時30分、東武日光駅前。集合後徒歩で現地へ。

交通：詳しくは参加者の方に別途返信用はがきで連絡します。

解散：正午前、現地にて。

定員：20名(先着順、埼玉会員限定)

申込み：往復はがきに、住所、氏名、年齢(保険加入が必要)、電話番号、メールアドレス(ある場合)、日本野鳥の会会員番号、を明記して、青木正俊(〒

)へ。3月1日以降の消印を有効受付とします。

万一中止の場合、前日にメールまたは電話でご連絡します。家族会員もご参加の場合は、同一申し込みはがきに併記してください。

担当：青木、浅見、入山、小林(み)、玉井
見どころ：初めての探鳥地です。春の日光で夏鳥と一緒に探しましょう。午前中で探鳥会は終了します。東照宮裏山探鳥会コースの近くですから、そちらにまわる余裕もあります。

ご注意：コースは短いけれど、急な坂がありますので、履きなれた靴でご参加ください。



行事報告

11月27日(日) 狭山市 入間川

参加: 25名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トビ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ イソヒヨドリ ツグミ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外: ドバト) 11月下旬になっても冬鳥の数が少ない。開始から1時間ほどで足取りが重くなってきた。そんなみんなを瞬く間に元気にしたのが、イソヒヨドリ♀だった。内陸部ではほとんど見かけないので、少し見たくらいでは頭の中でヒヨドリとかツグミとしてかたづけしてしまうだろう。先入観のない目でまじめにみている人ならば見つかるのだろうか。見つけた人に感謝。

(長谷部謙二)

12月3日(土) 加須市 渡良瀬遊水地

雨のため中止。 (内田孝男)

12月4日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加: 26名 天気: 晴

カイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ ミサゴ オオタカ チョウゲンボウ キジ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) (番外: ドバト) 前日までの雨があがったものの、北風の稀にみる強い日であった。飛ぶ鳥は翼をすばめても流され、小鳥たちの声は風にかき消されて聞こえない。そんな条件下だったからだろうか、シロハラ、アカハラ、ツグミ等を始めジョウビタキ、カシラダカ、シメなどの冬鳥は1羽も観察できなかった。しかし風の当らぬ場所では冬季初めてのキセキレイ、日当たりの良い土ボッチの上では、じっとし

ているホオジロ、風に流されつつも必死に飛ぶオオタカやチョウゲンボウ、ここで初めてのミサゴ等を楽しめた。時間とともに体ごと飛ばされそうな強風になり、少し早めに終了。 (長嶋宏之)

12月4日(日) 北本市 石戸宿

参加: 69名 天気: 快晴

カイツブリ アオサギ マガモ コガモ オオタカ ノスリ バン キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ カケス ハシブトガラス (24種) 3日間の雨天の後の快晴。おかげで、69名もの参加を頂いた。(3ヶ所同時開催にもかかわらず。) スタートはメジロ。次にエナガの群れ。木道にキセキレイ。シジュウカラの囀りと、順調。その後が続かない。学習センターの横を右に折れて丘の上に。黄葉がきれい。20数年前の「野鳥保護の集い」で三笠宮殿下等が植樹されたケヤキ(だと思ふ)が大きくなっていた。紅葉・黄葉を楽しみながら荒川の河川敷へ。桜堤を越えると、目の前には、素っ晴らしく綺麗な富士山。肝心の鳥は風が強いためか、既に来ている冬鳥も普通に見られる筈の鳥も出てくれなくて残念な結果だった。それでも、快晴・紅葉・富士山と結構満足できた。2月は汚名をそそぐためにも頑張りたいと思うのは、リーダーだけでなく鳥たちも同じです? ご期待下さい。 (吉原俊雄)

12月4日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 70名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ハシビロガモ ハイタカ チョウゲンボウ キジ バン オオバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) (番外: ドバト) 雨が上がり、天候は回復したが、風がかなり強い状況。「冬鳥の到来が遅いようだ」との情報どおり、鳥が居ない。どこに行ってもさっぱり。盛り上がりのないまま終わった感じだったが、それでも32種。たくさんの人の目があるのはスゴイと今回ほど思ったことはない。 (伊藤芳晴)

12月10日(土) 所沢市 狭山湖

参加: 37名 天気: 快晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオヨシガモ オナガガモ ホシハジロ ホオジロガモ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ キジバト コゲラ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロガモ アオジ カワラヒワ スズメ ハシブトガラス (34種) (番外: ドバト) 集合地点でコース状況等を説明している最中、上空をノスリが悠然と飛んだ。初め良ければ…の喩えのとおり、さらにミサゴ、オオタカと出て猛禽ファンは大喜び。湖では、ハジロカイツブリがカンムリカイツブリの群れから離れて浮いており、しっかりと観ることが出来た。(石光 章)

12月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 23名 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ オオタカ ノスリ ハヤブサ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 集合場所でジョウビタキ♂。出足は良かった。しかし土手に上がっても鳥は見えない。快晴で東秩父の山には雪が見えた。紅葉を眺めながら歩くとモズ、アオジが出てくれた。梢にシメが1羽、河原で遠くの木にツグミが2羽、それにしても少ない。上空でオオタカが帆翔、野鳥の森入口でハヤブサ、ノスリが飛んでようやく盛り上がった。森の中でシロハラが鳴いた。カシラダカの群れが飛び、あちこちの枝でチツと鳴いているが葉があり見難い。前日の寒さが嘘のように暖かくなった。池のところで鳥合せが終わった時に、ジョウビタキ♂が水を飲みに来て締めくくってくれた。(千島康幸)

12月11日(日) さいたま市 岩槻文化公園

参加: 54名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ ヒドリガモ オナガガモ オオタカ ノス

リ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外: コブハクチョウ、ドバト) 前日の冴えなかった下見の懸念通り、前半は遠くにツグミが1羽逆光で見える程度。しかし、休憩後テストコースに出るなり数羽のエナガがお出迎え。コース最南端では、元荒川の岸辺に降りているオオタカに盛り上がる。さらに帰りかけには飛翔する姿もサービスしてくれる。鳥合せの時にはノスリがガラスにモビングされているのを順光でじっくり見ることができた。天候に恵まれて年末の慌しさを一時忘れさせてくれる“のんびりお散歩探鳥会”であった。(長野誠治)

12月14日(水) 加須市 渡良瀬遊水地

参加: 50名 天気: 曇

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ トビ オオタカ ノスリ チュウヒ ハヤブサ チョウゲンボウ オオバン キジバト カワセミ アカゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (47種) (番外: ドバト) 幸先良く、谷田川の岸に貴重なツグミ3羽を見つけた。谷中湖を見るとカモが非常に少ないが、白くなったミコアイサが居たので一安心。浮島の上を飛んでいたチュウヒが木の枝に止まり顔もよく見えて良かった。東橋付近でトモエガモが見つかって大騒ぎした後、谷中村史跡まで冬の小鳥やツグミ類を探しながら進んだ。特にベニマシコが多く、赤い雄を含む小群が何度も現れ、参加者は大喜びであった。(玉井正晴)

12月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 8名

新井浩、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司、松村禎夫



●東日本大震災義援金の配分など

支部ネット通信 2012 年 1 月定期 No. 112 号によれば、昨年 9 月までに 325 万円の野鳥の会義援金が集まり、12 月までにお申し出のあった岩手・宮城・福島・茨城 4 県 49 名の被災会員に第一次、第二次分を合せ、1 人 6 万円のお見舞金をお送りしました。受け取られた方々からは、支援に感謝するメッセージが寄せられています。

12 月末時点での残額 31 万円については、被害の大きい東北地方太平洋沿岸部の支部に全額を分配する予定です。

双眼鏡、望遠鏡の寄贈についても、機材お届けを進めていますが、1 月 11 日現在でまだ双眼鏡 6 台、望遠鏡・三脚各 1 台をお待ちの方がいます。故障や不備のない機材をご寄贈くださる方は、直接本部に送るのではなく、事前に会員室会員グループ (FAX03-5436-2636、メール gyomu@wbsj.org) にご連絡ください。機材の種類、メーカー名、型番、製造年、色などをお尋ねした上で、寄贈を待つ方のご希望とすり合わせ、送り先を指定させていただきます。

「避難先で小学生と野鳥の観察をしています。子どもにも使いやすい双眼鏡を」「自宅はすべて流出して仮設住宅で生活。コクガン調査継続のため望遠鏡を」などの声が届いています。

●会員の普及活動

1 月 25 日 (水)、川崎市川鶴公民館主催のバードウォッチング講座が、坂戸市浅羽ビオトープで開催され、講座参加者 40 名

に対し、藤掛保司・大坂幸男・杉原みつ江・小林みどり・増尾隆・林久美子・坂口稔・中間清美の 8 名が指導、35 種を観察しました。

●会員数は

2 月 1 日現在 1,944 人。

活動と予定

●1月の活動

- 1 月 14 日 (土) 2 月号校正 (海老原美夫・大坂幸男・小林みどり・志村佐治・長嶋宏之・藤掛保司・山田義郎)。
- 1 月 15 日 (日) 役員会 (司会：浅見徹、各部の報告・会員増対策など)。
- 1 月 23 日 (月) 「埼玉会報だけの会員」に向け 2 月号を発送 (倉林宗太郎)。

●3月の予定

- 3 月 3 日 (土) 編集部・普及部・研究部会。
- 3 月 10 日 (土) 4 月号校正 (午後 4 時から)。
- 3 月 17 日 (土) 袋づめの会 (午後 3 時から)。
- 3 月 18 日 (日) 役員会 (午後 4 時から)。

編集後記

表紙の写真候補が複数集まった。まったく応募がないことも少なくないのに、重なる時は重なる。いずれも素晴らしい作品だ。楽しく悩んだ結果は、「初めての方優先」。ごめんなさい。これからも悩ませてください。(海)

また、カメラを落としてしまった。うまく落下したのか？本体は無事だった。ラッキーと思ったら、ズームレンズが動かなかった。虫の写真撮るのに不便なので修理した。落カメラ注意!! (藤)

しらこぼと 2012 年3月号(第 335 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamazebuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 日本野鳥の会 会員室 TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635 gyomu@wbsj.org

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社